

兒童心理學文獻抄 二

牛 島 義 友

幼兒の性格の觀察

幼稚園保育の主眼が性情の涵養にあることは申すまでもない。知的機能を陶冶する事も勿論必要であり、基本的な觀察力とか判斷力を啓發する事は幼稚園に與へられた使命ではあるが、併しそれよりも徳器を磨きやがて完全なる人格にまで成就さす基を作るべきである。性情とか性格とか云ふものは言葉は簡單であるがその指してゐるものはいかゞ單純なものではない。吾々は善い性質の子とか悪い性質の子供とか云ふ様に總括的な判斷をする事に慣れて居り、従つて善い子供にするとか云ふ事も性質を變へれば一舉にして出來上るものゝ様に考へる傾向がある。併し性格とはそんなに簡單なものでなく、それには非常に多くの方面があ

る。人格に於て統一されてゐることは云へ、その具體的に現はれる面は千態萬様である。此の具體的な多様な性格の現はれを通して吾々は性情を涵養して行かねばならない。

此の教育の爲には先づ子供の性格を正しく觀察する事が基調となる。正しい觀察結果に基づいてその足らざる補ひ、優れたる所を伸ばさねばならない。或は此の教育の爲に取つた手段が果して有効であつたか否か云ふ點を調べる爲には、即ち訓育効果の測定をなす爲には、標準化された觀察が必要である。即ち觀察が主要な點を網羅し、無益な重複をなさず、簡にして要を得たものであり、而も觀察結果が量的に現はさるゝものが必要である。

斯る標準化された性格の觀察法に就て少しく詳述しやう。

斯る觀察法としては既に淡路圓治郎氏の「幼児性行評定尺度(昭和九年、フレール館發行)があり、之は凡ゆる意味に於て理想に近いものである。即ち觀察項目が比較的少數で而も一義的判斷が出来、觀察の結果から直ぐ保育の方針が樹ち、而も保育の効果が簡單に測定出来る。故に此の觀察票を使用される事をお奨めする。

併し斯る事に興味を持ち進んで研究しやうとされる方の参考の爲に二、三外國に於て使用されてゐる觀察票を紹介する。

メリルパーマー案 (C. A. Wilson etc: The Merrill-

Polmer Standards of Physical and Mental Growth 1930)

メリル・パーマー・スクールはアメリカのミシガン州にある最も完備したナーズスライ・スクールで、保育に科學的研究を併行して居り、幼児の知能検査法としても特色あるメリル・パーマー智能検査法を作成して居る。性格觀察に關係しては M. Yeoman, M. Berz 女史等によつて次の如き案が樹てられ、數年間に互つて此の學校に適應して標準化して居る。

此の幼児人格評定票は心的活力、効用性、情緒の統御、社會的順應性、作業の器用さの五つの方面に分けて觀察する。此の五つの方面に各二十宛の具體的な觀察問題が含まれる。此の中にはいつも同一性質に就て積極的方面を見るものと消極的方面を見るものがある。

一人の子供に就て是等の諸點に就て觀察しその通りであれば十、然らざれば一をつける。此の中、積極的な答をしたもの(次の表の問題の上に記された符號と一致するもの)の數を數へて採點する。

I 心的活力

- (十) 身體的調節が巧み、よく調整。
- (一) 繊弱。
- (十) 一つの計畫に取かゝる時元氣で精力的。
- (十) 丈夫、強壯
- (一) 身體的運動が拙ない、調整惡し。
- (二) 仕事をするに元氣なし、大人しい。
- (十) 獨立的(年の割に)。
- (一) のろくさい、精力なし。
- (一) 聲に生氣なし。
- (十) 冒險的(未知のものに對し)
- (十) 仕事を他の人と共にす。

- (一) 依賴的、人に助けを求む。
- (十) 身體的に頑丈、元氣。
- (一) 疲れ易い。
- (一) 大てい自分では何もせず立つて他人を見てゐる。
- (一) 障碍が起ると一つの事を完成出来ない。
- (一) 細心すぎる、冒險的でなくはじめの事をするのを恐れる。

- (十) 仕事が困難でもやりとげる。
- (十) 聲は生き／＼してゐる。
- (十) つかれ易くない。

II 效用性

- (十) 敏活に周圍に反應する。
- (一) 集中出来ない。
- (一) 他の子供の反應の模倣をして、獨創的でない。
- (十) 記憶力(歌、遊戲等の)平均以上
- (一) 周圍の變化に氣付くのが遅い。
- (十) 仕事によく集中する。
- (一) 記憶力(歌、遊戲等の)平均以下。
- (十) 獨創的反應。
- (一) 試行錯誤法でやる(計劃的でない)。
- (十) 想像力に富む。
- (十) 感覺の變化に鋭敏。
- (一) 六つかしい状態を切り抜けれない。

III 情緒統御

- (一) 非想像的。
 - (十) 好奇心強く質問多し。
 - (一) 心的不活潑、周圍に不反應。
 - (十) 新しい場面に際し過去の經驗を利用して行く。
 - (十) 年の割に巧く自分の思ひをのべる。
 - (十) 臨機應變。
 - (一) 好奇心なく聞きたがらない。
 - (一) 年の割に言葉下手。
- ### 情緒統御
- (十) 忍耐強し。
 - (十) 感情的反應充分に成長す(その年齢として)。
 - (十) 自分の活動に自足し没頭する。
 - (十) 自覺的でなし。
 - (一) 忍耐心なし。
 - (一) 情緒的反應が幼稚(その年齢として)。
 - (十) 云ひ付けられた時その通りする。
 - (一) 落付かない、自分の活動に不満足。
 - (十) 失敗するとやゝいら立つがすぐ直る。
 - (一) 引込み勝、後の方に居るのを好む。
 - (十) 氣分にむらなし。
 - (一) 注目を集めやうと積極的に努める。
 - (一) 望みの目的を遂げる事が出来ないと劇しくいら立つ。
 - (十) 自發的、主張的、ほしい物をねだる。

(一) よく狼敗す、不快なこと、刺戟的な事によりりすぐ取亂す。

(二) 劇し易し、興奮性。

(三) 人の注意や自分の力を適當に評價する。

(四) 何か云ひ付けられた時は命令してゐる人から避ける。

(五) めつたに混亂せず、氣分の劇變は少ない。

IV 社會的順應性

(一) 集團的活動に喜んで加はる。

(二) 人の注意を惹かうとせず。

(三) 新しい經驗にすぐに適應せず。

(四) 友に人氣なし。

(五) 注意を惹かうとする。

(六) 新しい社會的状況にすぐ適應する。

(七) 當てにならぬ、信用出来ない。

(八) 子供等に入氣あり。

(九) 自分の權利を護らない。

(十) 同年又年上の子供をひきゐて行く。

(十一) 友達に親切。

(十二) 他の子供と遊ぶ。

(十三) 信頼出来る、信用ある。

(十四) 權威に反撥する。

(十五) 自己の權利を護る。

(十六) 友達に不親切。

(一) 權威に適應する。

(二) 一人で遊ぶ。

(三) 集團の仲間に入るのを好まない。

(四) 同年又は年上の子について行く。

V 作業の器用さ

(一) 玩具を巧みに扱ふ。

(二) 破壊的、仕事を滅茶苦茶にして喜ぶ。

(三) 不精。

(四) 時間を有効に用ひる。

(五) 調度を扱ふに注意深い。

(六) 目的。

(七) 遊戲に獨創的。

(八) 時間を無駄に使ふ。

(九) 勤勉。

(十) 建設的、物を組立て、喜ぶ。

(十一) 遊びに非獨創的。

(十二) 活動に目的なし。

(十三) 材料を不注意に扱ふ。

(十四) 仕事を完成する迄續ける。

(十五) 仕事に集中する。

(十六) 遊ぶのに色々の材料を用ひる。

(十七) 取かゝつてゐる仕事から直ぐ心をそらす。

(十八) 直ぐ中止し永續させず。

- (一) 玩具の種類の範圍せまし。
 (二) 調度を扱ふのに不器用。

以上の觀察票に基づいて得點を數へて見る。中數を取る
 心理的活力十五・四、效用性十五・五、情緒の統御十三・八、
 社會的順應性十四、作業の器用さ十五・二、總點七十二・三
 となつてゐる。之はアメリカの子供の結果である故にその
 まゝ日本に適應する事は出来ないが、日本に於ても恐らく
 之に近い價が得られる事と思ふ。

フリツヂェス案(K. M. Bamham Bridges: The Social
 and Emotional Development of the Pre-school Child,
 1931)

彼は學齡前兒童の社會的並びに情緒的發達に就て深い研
 究をなし、幼兒を觀察する適當な尺度として詳細な包括的
 な觀察票を樹てゐる。先づ社會性發達の尺度としては子
 供同志の關係、大人との關係に別けて觀察し、情緒性の發
 達尺度としては一、苦痛ミ涕泣、二、恐怖ミ臆病、三、怒
 ミ苦痛、四、喜ミ感激、五、興奮ミ寢小便、六、惡癖ミ言語
 の異常、の項目に別けてそれ／＼十個前後の問題を排列し

て居る。併し之は餘りに大きすぎるので又別に五十問題か
 ら成る簡單な性格評定票を樹てゐる。之は社會的方面、
 人格的方面、情緒、の三方面から幼兒を觀察する事になつ
 て居る。此の方を次に摘録しやう。

學齡前兒童の性格評定票

社會的

- 1、他人と遊ぶか一人で遊ぶか
- 2、他人にかまばないか邪覺をするか
- 3、他人におだやかか亂暴か
- 4、他人を助けるか助けられないか
- 5、秩序をまもるか混亂を起すか
- 6、他人のする事を學ぶか無視するか
- 7、他の子供を指導するかついて行くか
- 8、自分の權利を主張するか否か
- 9、共通のか否か
- 10、威張らないか否か
- 11、我まゝか否か
- 12、同情的か否か
- 13、感情的か否か
- 14、毎日の仕事に共同のか否か
- 15、ひどく話ずきか否か
- 16、ひどく黙りやか否か

人格的

- 17、遠慮深いか無遠慮か
- 18、注意を求めないか否か
- 19、權威に従ふか否か
- 20、從順的か否か
- 21、批評に敏感か否か
- 22、大人のゐない時に忠實か否か
- 23、獨立的か否か
- 24、自信があるか否か
- 25、勢力的か、ぼんやりしてゐるか
- 26、靜肅かやかましいか
- 27、仕事か早いかおそいか
- 28、執着のか早く断念するか
- 29、注意深いか不注意か
- 30、目的の無目的か
- 31、集中的か分散的か
- 32、きつたがるか無頓着か
- 33、構成的か破壊的か
- 34、遊戲において獨創的か否か
- 35、空想的か

情緒的

- 36、愉快か憂鬱か
- 37、氣分が變り易いか否か

- 38、自發的か消極的か
- 39、自己意識的か否か
- 40、神經質か否か
- 41、嘘をつくか否か
- 42、劇し易いか否か
- 43、涙をこらへるか、すぐ泣くか
- 44、勇敢か臆病か
- 45、見られても餘り妨げられないか否か
- 46、熱感的か衝動的か
- 47、かんじやくか否か
- 48、すれるか否か
- 49、忍耐的か否か
- 50、許すか復讐するか

同じ様な表を澤山掲げるのは讀者に迷惑であるかも知れないが、もう一つ丈カリフォルニア大學の兒童研究所から出てるナースリー・スクールの爲の案を紹介しやう。

カリフォルニア案 (H. S. Conrad : The California Behavior Inventory for Nursery School Children, 1933)

此の案では子供の性質を評定する場合に特別な注意を要求してゐる。即ち一人の子供を始めから終り迄觀察せずに一つの觀察項目に就て全部の子供を先づ判断する。勿論年齢を考慮した上でその問題に就て各人の占める位置を定め

それがすむと第二の觀察項目に移る。斯るやり方は子供を客觀的に公平に觀察するのに都合がよい。又判斷は七段階に別けて居る。即ち極端にその性質を持つてゐる者は一、著しい者は二、平均以上なら三、普通は四、平均以下なら五、著しく缺けてゐる者は六、極端に缺けてゐる者は七、ミ云ふ工合に段階をつけて詳細に觀察する様になつてゐる又判斷者の主觀に影響されない様に各觀察項目毎に極端にその性質を持つた例、普通の例、極端に缺けてゐる例を具體的に掲げてゐる、此の例を見乍ら判斷して行くのである。

觀察項目は全部で二百三十一個の膨大な包括的なものであるが、此の全部の觀察が出来ない時の爲には六十一の項目をその中から選り出してゐる。此の分丈を次に簡單に項目丈を擧げやう。併し最初の二つ丈は詳細に譯述して此の觀察票の手法を例示する事とする。

I 大きな活動(戸外でする様な運動)

a、大きな活動に費す時間の量

1の例、大部分の時間を大きな運動に費す。きは立つて活動的。

4の例、普通なみの時間を大きな運動に費す。

7の例、不活動、靜的、殆ど大きな活動をしない。

b、活動の氣力

1の例、力強く精力的、元氣横溢、早く走つたり木を強く挽く等。

4の例、中位の元氣さ

7の例、動作に元氣がない。遊びや仕事も穩やかな靜的なもの。

II 一般の情緒的特徴

a、情緒の現はれ方。b、その敏感さと度合。c、泣くのをこらへるか。d、情緒的反應の持續時間。

III 要求に對する反應

a、社會的壓迫への反應。b、困難に對する反應。c、失敗挫折に對する反應、その中でも無生物による妨害、同年輩の子供による妨害、大人による妨害に分けて觀察する。

d、競争心の有無。e、いちめられた時の反應。

IV 特殊な性質 A

a、氣質が熱狂的。b、快活性。c、自己中心性(我儘、不親切、協同作業の三方面より見る)

V 特殊な性質 B

a、權利に對する態度。b、大人からの被暗示性。c、外か

らの暗示と指示を求める。d、獨立心。e、大人の注意を惹かうとする。f、順應性。

VI 特殊性質 C

a、友情。b、友情の深さ。c、愛情を求める。d、人氣の有無。e、説得の巧みさ。f、集團の指導者とされる。g、集團内で専横。

VII 特殊性質 D

a、神經質的性癖。b、外見に對する虚榮。c、大人に對する癩癖。d、すれる。e、からかふ。f、威張る。g、好戰的。h、所有欲。i、心配性。j、用心深い。

VIII 特殊性質 E

a、義務に對する責任感。b、正直。c、他人の所有權を認める。d、樂天的。e、滑稽な事に笑ふ。

IX 興味

a、おしゃべり。b、傍觀的。c、仕事の理想が高い。d、集中するか。e、計畫的。f、野心。g、好奇心。h、獨創的。i、空想性。

X 表情

a、表情の興へる快感。

XI 聲

a、云ひぶりが表現的。

羽蟲の舞

蟲む。

蟲、蟲、蟲、

蟲、蟲、蟲、蟲、

蟲、蟲、

蟲、蟲、蟲、蟲、蟲、

月の出

お月さま

ここから來たの、

お月さま

ここへ行くの、

お月さま

小さくなっちゃった

(二歳—三歳の幼兒の詩)